

研究結果報告書

満洲国におけるバルガ人の社会と生活：日本人との交流の視点から

所属：NGO「バルガの遺産」研究会

役職：会長・研究員

氏名：ツェデンバルジル・トゥメン

本研究は、満洲国の状況を知る当事者に対する聞き取り調査をおこない、またモンゴル語・日本語・ロシア語・中国語の貴重な文献資料をひもとくことによって、20世紀前半の国際勢力の再編がフルンボイル地域にどのような変化をもたらしたのか、激動の満洲国をいきたバルガ人の社会・生活状況と、運命に翻弄された人びとの足跡、彼らの日本人との交流を多角的に考察し、明らかにすることを目的とした。

これまで、モンゴル国や中国、ロシアでは、満洲国を完全に否定的に評価してきました。今回の研究を通して、以下の内容を確認した。満洲国成立後、遊牧をいとなんでいたフルンボイル（当時は興安北省）のバルガ・モンゴル人の生活、文化には、いちじるしい変化が生じた。学校教育の水準を向上させて言語のへだたりを解消する、現代医学の見地からみた衛生的な生活にかんする知識を啓蒙する、多民族関係における習慣の共通点と差異を認知させるなど、科学技術をまなぶ力量を育成する面で、顕著な変化をもたらした。他方、日本は軍事・政治の観点から、満洲国の「国民」となったバルガ・モンゴル人から20歳に達した男性を軍務につかせ、部隊に配属するか、軍官学校でまなばせるか、軍医として要請するなどのことをした。

研究代表者の企画により、2016年5月にチョイバルサン市でシンポジウム「博物館学と民俗学研究」（NGO「バルガの遺産」研究会とドルノド県博物館共催）を開催し、研究成果の一部を公表した。2017年1月に著書『バルガ・章京ナムジルダシ・ザンバル』（ウランバートル：ソヨンボ社、2017年1月、モンゴル語）を出版した。また、同年4月に国際シンポジウム「ドルノド県観光におけるイノベーション」（ドルノド県立大学主催）に参加し、「ドルノド県の観光事業を考える：アルタルガナー・アルタンドゥレー・バルガのナーダム」をテーマに本研究成果の一部を紹介した。

また、本研究成果はモンゴル国の新聞『ドゥル』に2回も報道された。

研究成果の公表について

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

1. 「バルガ人のモンゴル移住を指導した指導者たち」、シンポジウム「博物館学と民俗学研究」（NGO「バルガの遺産」研究会とドルノド県博物館共催）、2016年5月18日、モンゴル国チョイバルサン市
2. 「ドルノド県の観光事業を考える：アルタルガナー・アルタンドゥレー・バルガのナーダム」、国際シンポジウム「ドルノド県観光におけるイノベーション」（ドルノド県立大学主催）、2017年4月15日、ドルノド県立大学

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

1. 「ドルノド県の観光事業を考える：アルタルガナー・アルタンドゥレー・バルガのナーダム」、ツェデンバルジル・トゥメン著、『ドルノド県観光におけるイノベーション』（pp. 133-143）、2017年4月

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）

- 『バルガ・章京ナムジルダシ・ザンバル』、ツェデンバルジル・トゥメン著、Soyombo社（ウランバートル）、2017年1月